

## 水稻登熟期後半の水管理について

平成30年8月6日  
北海道農政部

6月中旬からの天候不順により、水稻の莖数が不足しているため、今後の収量・品質の確保に向けて、生育状況を的確に把握し、関係機関・団体と連携を図りながら、次の事項に留意し、登熟期後半の水管理に努めてください。

### 第1 土壌水分の目安

- 1 登熟後半の適正な土壌水分は、根の活力を保つため、浅水管理又は間断かんがいを行って登熟に必要な土壌水分の確保に努める。
- 2 登熟期後半の水田土壌水分と土壌表面の状態は表1（平成13年指導参考事項）を参考にし、土壌表面に小さな亀裂ができ、足を踏み入れた際、わずかに足跡が付く程度が目安とする。
- 3 土壌表面が乾燥しすぎると亀裂が入り、根が切れて水稻の吸水力が低下し、登熟不良や心白粒、腹白粒、乳白粒の発生、千粒重の低下を助長するので、収穫の10日前頃までは、土壌表面1cm以上の亀裂を入れないよう努める。

(表1)登熟期後半の水田土壌水分と土壌表面の状態

落水後登熟期間 の土壌水分	水 田 土 壌 観 察	収量への 影 響	産米品質 への影響
pF2.5以上	作土に深い大亀裂が生成、水稻根の切断が観察	×	×
pF2.4程度	作土に幅1cmくらいの亀裂多数、足跡つかない	▲	×
pF2.1～2.3	表面に小亀裂生成、わずかに足跡が付く	◎	◎
pF2.1以下	表面のみ乾燥、亀裂微、明瞭に足跡が残る	—	—

\*) ◎：好適、▲：境界領域、×：不適、—：収穫機械走行に悪影響

### 第2 落水時期と落水後の水管理

- 1 今年度は、ほ場毎に生育のばらつきが見られるので、生育状況を的確に把握するとともに、適切な水管理に努める。
- 2 落水時期は、玄米形成がほぼ完了する出穂期後25日目の「穂かがみ期」以降に行う。

- 3 なお、湿田や透水不良田では、出穂期から出穂期後7日目が落水の目安となるが、登熟期間が高温になることが予想されるため、土壌水分の状態に応じて、適宜走水を行う。
- 4 登熟期間にかんがいを切り上げた後に少雨で経過すると土壌が乾燥して収量・品質が低下する場合があります、登熟に必要な土壌水分を確保するため適正な水管理を行う。